

KANAGAWA



一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

URL <http://www.j-kana.or.jp/>

E-mail info@j-kana.or.jp

2014 年
2 月号

VOL.388



オフィシャルウェブサイト (会員ページ) 情報

○会報KANAGAWAをフルカラーにて
掲載中

○会員ページへは会員番号でログイン
してください



目 次

①② 建物探訪

③④ 神事協・宮城復興応援ツアー報告

⑤ 自得寺見学会報告

⑥ 三会同新春賀詞交歓会報告

表4 事務局便り
編集後記

建築探訪

相模国府祭六社めぐり

平塚支部 新倉一級建築士事務所 新倉 良一

新年明けて神参りを兼ねての取材で、相模国府祭六社を巡ってきました。

相模国府祭とは、毎年5月5日相模の国、一之宮(寒川神社)、二之宮(川勾神社)、三之宮(比々多神社)、四之宮(前鳥神社)、五之宮(平塚八幡宮)、六所神社の神輿が大磯の斎場に集まり、国家安泰、五穀豊穡、諸産業の繁栄を祈念する相模の国最大の祭典で大化改新(645年)以後、地方には国々が再編成され、新たに巡拝する神社の御分霊を国府近くの神社に祀る習わしが起こり、これが総社の起源となります。各神社の神輿を以て国府に集まるようお願いしました。これが国府祭の始まりともされます。



【四之宮】前鳥神社



六所神社



【一之宮】寒川神社



【二之宮】川勾神社

各神社の記録では、寒川神社は約1500年前、雄略天皇の御代に奉幣され、源頼朝、小田原北条氏、武田信玄等の信仰も殊に篤いと伝わっています。

川勾神社は第11代垂仁天皇の時代(約2000年前)磯長国(今の県西部)鎮護のため創起、建久3年(1192)源頼朝が妻・政子の安産祈願のため神馬を奉納したという記録があり、茅葺屋根の神門に、県内最古(平安後期)の随神像など記録を多数もっています。

比々多神社は、第53代淳和天皇により「延喜式」(三代格式のひとつで現代の「施行細則」にあたる)に列格(登録)されました。



茅葺屋根の神門（川勾神社）

前鳥神社は、天平7年(735年)相模国封戸租交易帳には「大住郡埼取(さきとり)郷」として記録されていることから、奈良時代以前に「さきとり」の地にお祀りしたのが始まりと考えられています。また、寒川神社と同じく建久3年(1192年)に頼朝が安産祈願にあたり神馬奉納をした記録があります。



頼朝公が安産祈願（前鳥神社）

平塚八幡宮は、今から1600年以上前の仁徳天皇の時代(618年)この地に大地震があり、それを見かねた天皇が詔をだされたのが創紀であると伝えられています。

六所神社は、5社の分霊を合祀し六所神社となりました。治承4年(280年)平氏の大軍が平維盛を大将として富士川に攻め寄りし時の戦勝祈願の記録が残されています。

六社それぞれの建物は、初期の記録によれば流造りが多いようです。切妻造り、平入り屋根には緩やかな反りをつけ、全面の屋根は流れるように伸びて向拝となり、柱間を横羽目板張りとし、まわりに高欄付の縁がめぐらされています。

現在のそれぞれの建物は権現造り形式の影響が多く見受けられ、拝殿は入母屋造りで全面中央に千鳥破風を据え、前面向拝に唐破風をもうけています。

相模国府祭の斎場の一つ、相模六社が集う神域として神揃山があります。5月5日は座問答等の神事が斎行されます。また六社の神体石や塚などが現存し、神奈川県無形民俗文化財に指定されており、悠久の歴史を今に伝えます。

【コラム】「相模国府祭六社を巡ってみよう！」

「国府(こう・こくふ)」は、奈良時代から平安時代にかけて、国司が政務を執る施設(国庁)が置かれた都市のことで、「国府祭(こうのまち・こくふさい)」はその都市における祭、あるいはそれが由来と伝わる祭事を指している。

◆一之宮・寒川神社◆

JR宮山駅下車徒歩

◆二之宮・川勾神社◆

JR二宮駅下車徒歩

30分 または 神

奈中バス「国府津下

行」乗車「押切坂上」

下車徒歩10分



八方除けでも有名な寒川神社

◆三之宮・比々多神社◆

小田急小田原線伊勢原駅下車、神奈中バス「北口1番線(関台経由栗原行)」乗車「比々多神社」下車徒歩すぐ

◆四之宮・前鳥神社◆

JR平塚駅下車、神奈中バス「本厚木駅南口行」「田村車庫行」乗車「前鳥神社前」下車徒歩3分 または 小田急小田原線本厚木駅下車、神奈中バス「平塚駅行」乗車「前鳥神社前」下車徒歩3分

◆五之宮・平塚八幡宮◆

JR平塚駅下車、北口より市役所方面へ徒歩8分

◆六所神社◆

JR二宮駅下車、神奈中バス「平塚駅北口行」乗車「国府新宿」下車徒歩5分

「神事協・宮城復興応援ツアー」に参加して

川崎支部 一級建築士事務所 アトリエ・アンド・エス
佐々木 徹

東日本大震災から2年10ヶ月目を目前に控えた、12月8日から1泊2日の宮城復興応援ツアーに企画委員会の一員として参加しました。

そう、みんなの心に大きな傷を付けた大きすぎるあの出来事から、もう3年が経とうとしています。時は過ぎても場所は存在し、変化しつつもあの時の痕跡がそこにあります。あの時に何が起こったのか、どのような行動を取ったのかを宮城県建築士事務所協会の方々にレクチャーしていただくとともに、神奈川県建築士事務所協会はどのような準備をするべきなのか、その時の行動はいかにすべきなのかを考えるきっかけとなり、また、津波が襲った街をこの目で見てあの大きすぎる出来事をリアルに感じると共に、ゆっくりかもしれないがしかし確実に行われている復興という2年10ヶ月の歩みを拝見する、そんなツアーです。

「冷たい小雨の中、突如東の空から陽があたる」

1日目の自由行動は、企画委員によって3つの観光コースを用意していただきましたが、私は1人で別行動をさせていただきました。



仙台広瀬河畔教会 記念碑納骨堂

バスに揺られること20分、傘を片手に林の中を抜けてさらに歩き、墓石を横目に登っていくと、目指していた大きな螺旋「仙台広瀬河畔教会・記念碑納骨堂」が見えてきます。小さくて繊細な絵が描かれているタイルや小粒の石、ちょっと大きな石でそれはできています。かわいらしいちいさなタイルに雨のしずくが乗っかって、曇った白い空からのやさしい光を反射し、大小の石は、雨しずくを抱え込むようにしておおらかな濃灰色へと姿を変えています。

冷たい小雨の中、手を合わせ見学させていただくことのお許しをいただき、ペットボトルなどを拾い集めていると、ずっと雨がやんで太陽がほのかな暖かさを連れて納骨堂を照らし始めました。

螺旋は大河の河口のような幅広から始まり、うねりながら渦を巻きながら段々と細くなって、右へ右へと回って中心に向かいます。中心にはなにかがあるのか、何もありません。正面の十字架のある扉がキリスト教の納骨堂だということを教えてください。

それにしても螺旋という造形は示唆に富む造形です。当たり前ですがただの円とは異なって螺旋には周縁と中心を繋げ、スタートとゴールがあります。その繋がりが時間の造形となって、ひとの大きな流れ＝人生にも、人の起源にも、はたまたいまこと宇宙との繋がりを示すものにも見えてきます。

始まりは中心か、それとも周縁か。中心の、もしくは周縁のその先には何があるのでしょうか。設計は「象設計集団」によるものとのこと。

「陸に向かって倒れ、海に向かって倒れる」

2日目は被災地をバスで巡りました。バスは日本三景松島を抜けて、いち早く復活を遂げた日本製紙工場、3年経とうとしてる今でも開口をベニヤで塞いでいる当時のままの空家と真新しい住宅と歯抜けた空き地とが混ざり合った街も抜けて、石巻へと到着しました。津波で街をさらわれた更地の中にある献花台。小林会長による献花と黙とうを捧げました。ここ石巻市で亡くなられた方は約三千人。雪がぱらついた3月の寒い寒いあの日に、大切な方を思う気持ちや、この場所で山へ山へと走った方々のこと、冷たい海水が押し寄せて体を濡らして凍えた方々のことを思うと、涙が頬を伝って流れます。



女川 江島共済会館

女川では、押し寄せる津波によって杭を切断して山に向かって横に倒れて15mほど移動しているS造4階建ての建物(江島共済会館)や、なんとその津波の引き波によって海側に向かってピロティに駐車した自動車を抱えて倒れているRC造3階建てのビル(女川サプリメント)を目の当たりにし、強力な津波とその壮絶さを知ることができます。

宮城会とのレクチャーとディスカッションでは栗原憲昭会長をはじめ高橋清秋副会長、松田純也事務局長による多岐に渡った話がありましたが、紙面の関係から別の機会に適任の方によ



石巻 日和山公園

る報告を待つことにします。また、開催して間もない「光のページェント」や、石巻が見渡せて避難場所にもなった「日和山公園」、宮城野区仮設住宅にある「みんなの家」(伊東豊雄氏設計)なども紙面の関係から紹介しきれいていません。

本企画は宮城県建築士事務所協会の方々のご協力なくしては成立しませんでした。2日目の震災地へは吉田様と小川様にバスに同乗していただき、被災者としてのお気持ちもあるのにもかかわらず、示唆に満ちた多くのお話をお聞きすることができました。深く感謝しております。ありがとうございました。

企画委員会では、今後また違った形での復興支援ツアーを企画したいと考えておりますので、次回是非皆様のご参加をお待ちしております。



宮城会の方々とともに

木造伝統建築工法見学会に参加して

鎌倉支部 株式会社悟工房
渡辺 彬子

横須賀市追浜町に位置する、臨済宗建長寺派の寺院である自得寺(室町時代創建)において、改修工事の見学会を開催して頂いた。

昭和11年に新築された本堂において、瓦屋根をチタン合板に葺き替え、不動沈下による歪みを修正し、土壁を塗りなおす等の改修工事で、屋根を取り外した後の小屋組みや、塗り途中の土壁を見ることができた。



本堂を丸ごと覆う「素屋根」

まずは山門の前で昭和11年当時の写真などを拝見し、改修工事の内容等の説明を受けてから、本堂を丸ごと覆った「素屋根」と呼ばれる仮設の中へ。軒高辺りの足場から裸になった小屋組みを見上げるのは圧巻で、これだけでも感動してしまう。小屋組み自体は状態が良いのでそのまま残し、破風板など風雨に晒され劣化した材や、細くて心許なかった桔木等を交換するそうだ。また屋根材を替える際、仕上げの厚みが変わってくるので、新たに束と母屋を追加して、屋根の仕上げ高さが以前と同じになるよう調整するそうで、「修復」の大変さを実感した。

次に土壁について説明を聞き、様々な材料や塗り工程の模型も興味深く拝見し、京都と関東の土の違いや、色土の高級さなどに驚いた。特に印象的だったのは、土はただ寝かせれば良い訳ではなく、解体の際に落とした古い土と新しく作った土を2：1で混ぜるのが最良だと言う事と、薄壁の場合「ひとつの工程に何ミリ取れる

か」を仕上げ厚さから逆算して精度よく施工すると言う事で、後日茶室を訪れた際、土壁を見る目がガラリと変わっている自分がいた。



土壁についての解説も…

また、不動沈下による歪みの修正には、ジャッキアップにて全体を持ち上げ、基礎石と束の間に鉛板を挟み込んで微調整する手法を用いたそうだ。鉛板は柔らかいので、石と木材の凸凹に程良くフィットするらしい。

最後に温かいほうじ茶を頂き、新材すべてに入れる「平成二十五年度修補」の焼き印が入った木札を頂いた。思いがけない嬉しいお土産に一同笑みがこぼれた。素敵な機会をつくって下さった方々に感謝したい。



参加者による土壁塗り体験

平成26年三会同新春賀詞交歓会開催について

神事協事務局

平成26年1月17日快晴の中、建築士会・JIA神奈川・神事協による「三会同新春賀詞交歓会」が横浜・ホテルキャメロットジャパンにおいて開催されました。280名余のご出席を賜り、大変に盛況な会となりましたことをご報告させていただきますとともに、ご出席を賜りました多数の会員・賛助会の皆様に厚くお礼申し上げます。

今回は本会が幹事会としての役割を担い、「神事協ならではの」会となるよう努めてまいりました。当日のアトラクションは、箱根地域で外国人観光客に向けて着物の着付けや日本文化へのふれあいなど「日本のお・も・て・な・し」を伝えるボランティア活動をされている鈴木恒美様による、「平家物語」の琴の弾き語りという大変珍しい演目をご披露いただきました。また、司会を県西支部会員の加藤一郎氏にお願いし、前例のない男性司会者という新鮮さも演出しました。

小林会長による新年のご挨拶では、「耐震改修促進法改正によって生じた責務の大きさや設計のプロ集団である三会の会員が安心・安全のまちづくりのために汗を流していくことへ支援・協力をいただきたい」とのお話がありました。また、近年で最も盛況となった本年の賀詞交歓会は「オール神事協による協力体制あってこそ」であるとのアピールもしていただきました。

6

来賓としてご臨席いただいた黒岩祐治神奈川県知事からはご祝辞を頂戴し、「景気が上向きで県内の税収が増えていること」「相模原市のロボット特区のイメージキャラクターとして有名アニメキャラクターの使用が許可されたこと」など、未来に繋がるお話を聞かせていただくことができました。

会は、和やかにそして賑やかに進み、盛況のうちの終わることができました。会場には皆様の笑顔や笑い声が溢れ、有意義な時間をお過ごしいただけたのではないかと事務局一同、嬉しく思っております。皆様のお力となれますよう努めてまいりますので、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



小林会長「新年ご挨拶」



黒岩県知事のご祝辞

会員異動報告

入会

横浜支部

a. m. a design 朝倉 美穂
〒223-0062 横浜市港北区日吉本町1-28-21
TEL.045-872-3090 FAX.045-872-3090

横須賀支部

株式会社高戸工務店設計事務所 高戸 憲一
〒237-0075 横須賀市田浦町3-30
TEL.046-861-1234 FAX.046-861-1734

退会

横浜支部

一級建築士事務所三國設計 三國登喜夫

厚木支部

吉川設計一級建築士事務所 吉川 昭

【今月のベストショット】

◇「改修工事の記録・焼印」◇



本文5頁掲載の「木造伝統建築工法見学会」は、木造専門委員会の内田委員が棟梁をなさっているご縁によって実現しました。改修工事は約100年ごとに行われ、改修時期が分かるように使用する材木にはすべて焼印が焼き付けられています。

【お知らせ】…新体制により、誌面構成の見直しを行っております。

本誌掲載記事の内容は執筆者本人の見解において記述・掲載をしております。神事協としての見解ではございませんのでご了承下さい。

会 勢

		平成26年 2 月 1 日現在			
支部名	平成25年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 濱	251	251	14	13	1
川 崎	101	106	8	3	5
横 須 賀	54	52	2	4	-2
湘 南 三 浦	18	18	2	2	0
藤 沢	25	24	1	2	-1
鎌 倉	39	38	1	2	-1
茅ヶ崎寒川	19	18	0	1	-1
平 塚	23	23	1	1	0
秦 野	18	19	1	0	1
伊 勢 原	8	8	0	0	0
大和綾瀬	21	20	0	1	-1
厚 木	35	32	0	3	-3
座 間	12	12	0	0	0
海 老 名	15	15	0	0	0
愛 川	8	9	0	0	0
相 模 原	82	79	1	3	-2
県 西	48	48	1	2	-1
合 計	777	771	32	37	-5
賛助会員	79	78	4	5	-1

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

2月の行事予定

2月3日	建築物耐震改修評価特別委員会
4日	支部長会 広報情報委員会
5日	マンション等の大規模修繕業務研修会 会場:日本丸訓練センター 「住・緑・家」運営専門委員会
6日	総財務委員会
7日	改正省エネ講習会 会場:神事協議室
12日	開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会 会場:横浜市開港記念会館
13日	業務支援委員会
17日	天井脱落講習会 会場:神事協事務局
18日	JW-CAD(日影&天空率)1日目 会場:東部総合職業技術校 木造専門委員会 ブロック支部委員会
20日	正副会長会 統括委員長会
21日	新規開設建築士事務所講習会 会場:神事協議室 構造専門委員会
24日	建築士定期講習 会場:横浜市技能文化会館
25日	JW-CAD(日影&天空率)2日目 会場:東部総合職業技術校 マンション等の大規模修繕業務専門委員会
26日	建築物耐震改修評価特別委員会
27日	調査鑑定登録更新研修会 会場:横浜市技能文化会館

編集後記

新たな広報情報委員会がスタートして半年が過ぎました。現在HP情報の役割分担も考慮しながら、次年度に向けて会報の隔月発行・表紙デザイン・紙面のカラー化・紙面増頁による誌面構成を委員会内で論議しています。会員への情報発信・記録であると共に、一市民県民の皆さんに興味を持たれる会報誌・・・を考えています、ご期待ください！

*犬仲間・・・ 老犬と 寒朝散歩の ごあいさつ
(広報情報委員会 白川 正孝)

かながわ 平成26年2月号 (通号388号)

発行 平成26年2月1日 (毎月1日発行)
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12
第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755
FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

： 担 当 副 会 長 芝 京子
： 広報情報委員長 白川 正孝
： 広報情報副委員長 宮寺 透雄
： 広報情報委員 森 雄治
： 棚橋 由佳
： 坪井 教一
： 坂本 歩美
： 事務局
： 小泉 厚
： 恩田 耕爾
： 新倉 良一
： 杉本 勝郎